

互いの国の文化にふれる

高校、大学生ら
モンゴル一行来津 津山商高で交流

高校、大学生らを中心にしたモンゴルからの一行（14～36歳、16人）が20日、津山商業高校（山北）を訪れ、生徒たちと会話やゲ

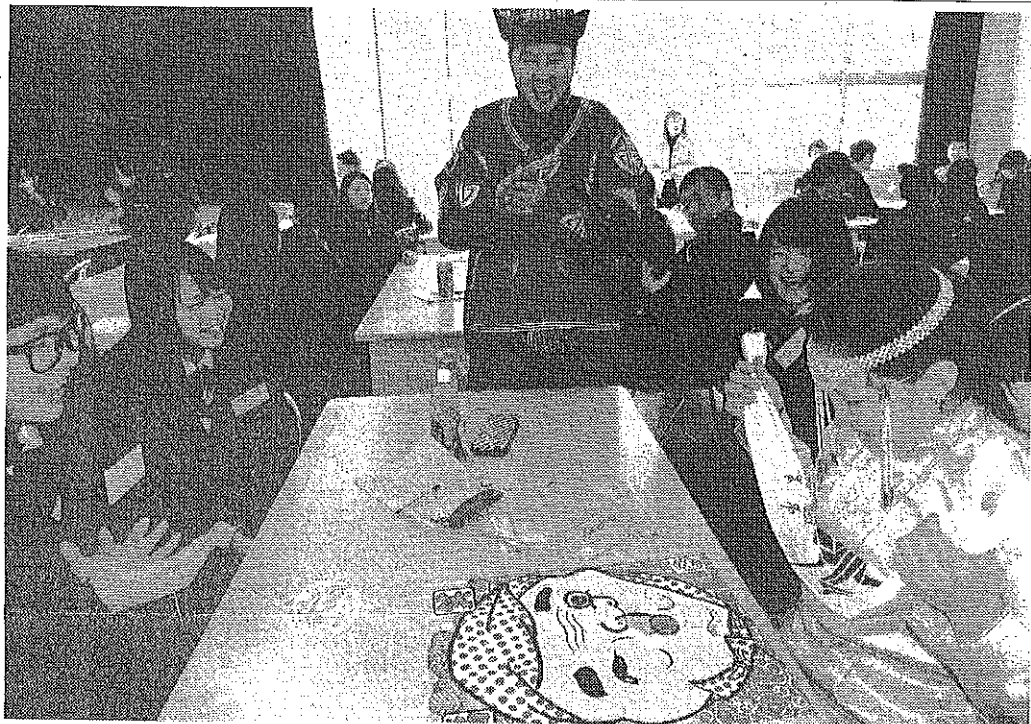
ムを通じて互いの文化にふれた。

日本政府が進める青少年交流事業「JEN E.S.S.S.2.0」の一環で、一行は東京の相撲博物館などを見学後、19日から24日まで県内の歴史的建造物や企業視察、学校訪問を行っている。

この日は国際ビジネス科の2年生34人が参加し、モンゴル語と日本語が書かれた紙を見ながら互いに自己紹介。趣味や好きな食べ物などを、身振り手振りを交えながら一生懸命質問し合っていた。

続いて「だるまおとし」や「福笑い」のゲームを実施。福笑いでは、目隠しをした人に津商生もモンゴル語で「デーシエー」(上)、"ドーシヨー" (下)、"パローン" (右) と言いなから置く場所を指示し、ゆかいな顔ができあがると大笑いしていた。

その後、モンゴルの学生らは日本語で「ふるさと」を歌ったり、馬頭琴などの演奏を披露し、大きな拍手が送られた。



福笑いをして楽しむモンゴルの学生らと津商生

則本茜さんは「モンゴルの人は想像していた通り、やさしい人たちがばかりだった。日本語がしゃべれる人もいて、アニメの話で盛り上がり親近感が持てた。アニメの「ナルト」や「ワンピース」が好きという女子高生ブヤンフー・オウンシャルガルさん(14)は「いつか日本の学校で学んでみたい」と思っていたので、高校を訪問し、交流できうれしい。津山の街はきれいで清潔。皆フレンドリー」と笑顔で話した。

滞在中、つやま自然のふしぎ館や奈義町現代美術館などを見学。勝間田高校生とも交流し、津山、美作市など一般家庭で泊ホムステイする。